

5月24日（日）ネットライブ礼拝

原稿 能城一郎

タイトル：集まりと励まし合い

聖書箇所：ヘブル書 10章25節

【新改訳 2017】

ヘブル 10:25 ある人たちの習慣に倣って自分たちの集まりをやめたりせず、むしろ励まし合いましょう。その日が近づいていることが分かっているのですから、ますます励もうではありませんか。

今日のタイトルは、「集まりと励まし合い」としました。

最初に「集まり」について、お話をします。「集まり」ということばは、389回の新約聖書にあります。「集会」と訳される場合もあります。ヘブル書の書かれた時代、クリスチャン達に迫害がありました。どのような、迫害だったのでしょうか。ヘブル書10章32節～34節にそのヒントがあります。

10:32 あなたがたは、光に照らされた後で苦難との厳しい戦いに耐えた、初めの日々を思い起こしなさい。33 嘲られ、 苦しい目にあわされ、 見せ物にされたこともあれば、このような目にあった人たちの同志となったこともあります。34 あなたがたは、牢につながれている人々と苦しみをともし、また、自分たちにはもっとすぐれた、いつまでも残る財産があることを知っていたので、自分の財産が奪われて

も、それを喜んで受け入れました。

理由なき嘲り、遭わされたくない苦しみ、あるいは、見せ物になってしまう。そのつらい状況の中で、クリスチャン達は、不当に牢屋につながれた人々の事を思いやり、傍らに寄り添い励ましを与えていました。また、「自分の財産が奪われ」ても、永遠の価値観を持っていたので、それを喜んで受け入れていたのです。

迫害の手がおさまり、やっと、自由に集まる事が出来るようになりました。が、しかし、クリスチャンの集まりの豊かさに、理由は分かりませんが、美しい励まし合いの集いに、嫉妬したのか、なにか気に入らない事でもあるのか、「こんな集まりは、本当に必要な・・・」と美しい励まし合いの集いに水を差したようです。

「水を差す」の語源を調べると、

「水を差す」が「邪魔をする」という意味のことわざになった由来は、適温のお湯や適度な濃さの料理に水をそそぐ様子からです。お湯はぬるく、料理は味が薄くなり台無しになってしまいます。このことから、良い状態のものに邪魔をして乱すことを「水を差す」と言うようになったそうです。

このように解説されています。

この水を差すというふるまいが体に染みつ

た人々の様には、なりたくないですね。

この「集まり」の混乱を消し去るために、ヘブル書の記者は、今までやってきているクリスチャンの集まりをやめたりするでなく、それを続けることを奨めます。その理由は、明確です。集まりの中にある、「励まし合い」です。

集まってよかったと体感、納得できる麗しい「励まし合い」が、クリスチャンの集まりには、必要なのです。集まっても、そこに、誰もが、「確かに、アーメン」と言える「励まし合い」がなければ、それは、空しい集まりといえるかもしれません。

ここで、「励まし合う」についてお話をします。

「励まし合う」の本来の意味は、「他の人を傍らに呼ぶ」ことです。何か助けが欲しいとき、傍らに誰かが来て助けてくれたならば、それは、励ましとなります。助けてくれた人に、「ありがとう」と言えば、そばに来て助けてくれた人も、また、励ましを受けます。これが、励まし合いということです。

でも、今は残念なことですが、社会的距離があって人の傍らに立つことが出来ないのです。東京都は、ステップ1～3という緊急事態宣言解除の方策を発表しました。たとえ、ステップ3まで来たとしても、社会的距離を保ちながらの励まし合いがしばらくは続くことでしょう。

今、皆さんの傍らにはだれがおられるでしょうか。私の傍らには、ライブ中継用のカメラを操作してくれる人が、優しいまなざしで、わたし

を励ましてくれています。また、もう一人、ピアノを弾いてくれる家内が、励ましの笑顔で3M離れたところにいます。

ネット環境のない方の中には、ひとりこのメッセージ原稿を読みながら礼拝を守っておられる方もいます。最後、皆さんと「インマヌエル」を賛美いたしましょう。

今日は、「集まりと励まし合い」というタイトルでお話をしました。

もう一度、聖書のみことばを読みます。

ヘブル 10:25 ある人たちの習慣に倣って自分たちの集まりをやめたりせず、むしろ励まし合いましょう。

(^^♪ インマヌエル インマヌエル

(^^♪ あなたは 我がうちに

(^^♪ インマヌエル 麗しき主イエス

(^^♪ あなたは 今ここに